

聖書の根本の真理

パウロと同船して

H・A・アイアンサイド著



H. A. アイアンサイド著

パウロと同船して

聖書の根本の真理

伝道出版社

SAILING WITH PAUL

BASIC BIBLE TRUTHS

by

Dr. H. A. Ironside

EVANGELICAL PUBLISHERS
TOKYO, JAPAN

目次

序文	五
神への回心	一〇
罪の赦し	一六
すべての点について義と認められる	二三
生まれ変わり	二七
永遠のいのち	三三
きよめ	三八
受け入れられること	四四
立場と状態	五〇
交わり	五六
キリストのからだなる教会	六一
地域にある信者の集まり	六九

バプテスマとそれに関する真理	七五
主の晩餐	八一
読書・交際・レクリエーション	八七
主のあかし	九三
主の再臨	九九
航海の終わり―キリストのさばきの座―	一〇四

序 文

ルカが書いたパウロのローマへの船旅の記事を注意深く学ぶと、たくさんのことを教えられます。文字どおりにとれば、それは、死の危険に直面していたご自分の愛するしもべを、主イエス・キリストが直接お守りになったすばらしい記録です。一方、比喩^{ひゆ}として見れば、エルサレムからローマへと移り変わっていった教会の驚くべき描写です。

*この観点からすれば、ある兄弟たちが信じているように、使徒の働き二七、二八章は教会がたどった道程の預言的叙述です。すなわち、教会の歴史は、エルサレムで霊的純粹さ^{じゆんじゆん}を特徴にして始まり、外面的には、ローマの力と影響力によって背教（破船）に終わるのです。

文 序
ここで、二七章二一―二六節に書かれているパウロが体験した出来事に、若い信者たちの注意を引きたいと思います。

太陽も星も見えない日が幾日も続いていました。船長は落胆し、水夫たちは希望を失っていました。そのとき、船に乗っている全員の慰めとなったのは「主の囚人」（なんとす

ばらしい肩書き——カイザルのでもローマのでもなく、主の囚人とは）パウロでした。彼は、神によって彼自身がついさつき慰めていただいたばかりのその慰めをもって彼らを慰めたのです。それは神の御使いが彼にあらわれ、彼の前に立って、「恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです」（使徒二七・24）と言ったからです。

このことはパウロにとって問題の解決でした。彼は、船自体にどんなことが起ころうとも、船中の者はひとりも失われることがないことを知りました。そこで彼は、「皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりにになると、私は神によって信じています。私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます」と言い、事実、そのとおりになりました。船は難破しましたが、パウロと同船していた者はすべて死をまぬかれ、無事に陸に上がることができました。

私はこのことを魂の問題に応用してみたいと思います。そしてまず最初に、読者のひとりひとりに「あなたはパウロとともに航海していますか」とお尋ねします。これは決してこの世の一時的な問題ではなく、永遠の救いの問題です。私の意味する航海とは、地上のある港からある港への航海のことではなく、もっとはるかに重要な、すなわち地上から天

への、滅びの町から天上の町への航海のことです。あなたが時という海を、永遠のあなたに向かつて航海中であるということは、動かすことのできない事実です。では、あなたはパウロとともに航海していますか。パウロと航海する者はすべて、この世の旅路においてどんなに浮き沈みがあろうとも、最後には栄光に輝く港に着きます。全人類のための大使徒パウロと同船しない人はすべて、その希望がどんなに高く、また人生の旅路がどんなに静かであろうとも、救いの港に到達しません。

パウロと同船するとはどういうことでしょうか。それはパウロの救い主を知り、パウロと祝福を分かち合うことです。あなたはもう、そうしているでしょうか。今日のキリスト教界には、信者と名のり、目に見える教会に属していて、しかも聖餐にあずかり、キリスト教の活動に熱心でありながら、パウロと同船していない人が大ぜいいます。パウロはこのうちのどれにも信仰の基礎を置かず、神の比類のない恵みにのみ信頼しました。

読者のみなさん。神の恵みはあなたにとってどういう意味をもっているでしょうか。人は恵みについて語り、「恵みによる救い」を賛美しますが、実際にはいつも自分の正しさに頼り、自分の熱意、熱心さの上に永遠に対する望みを打ち建てています。彼らは決してまじめに恵みの意味を考えているようには見えません。そうでなければ、口にしたそのこ

とばを行いで否定するようなことはしないはずで。

恵みとは何でしょう。それは値打ちと正反対のものです。もし自分のうちにある値打ちについて考えるなら、私は自分の罪深い魂の前に、恐るべき永遠の地獄を見るしかありません。しかし、ひとたび恵みについて考えるとき、私はあらゆる絶望の思いから一転し、反逆者の私のために、侮辱をお受けになったその神が、ご自身の御子を死に渡してください、それは私が御子を信じて永遠に救われるためであつたという比類のない神のご愛を思うのです。このように神の恵みは、私にとって不相応な慈愛であるだけでなく、まさにさばきに値する、反逆した人にさえ示された慈愛であることがわかります。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によつて救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるものではありません。だれも誇ることもないためです」(エペソ二・8、9)。これは恵みによる救いについてパウロ自身が言ったことです。このようにしてパウロは救われ、パウロと同船する人もみな、同じように救われるのです。私はこれから、私たちの永遠の祝福のために選ばれたパウロが宣べ伝えた尊い真理のいくつかを明らかにしたいと思います。それを讀む前に、あなた自身がパウロと航海しているかどうかを確かめてください。それらの真理は、パウロと同船していない者には当ては

序 文

まらなからです。